NO. 355 2014. 8. 22
日本共産党江南市委員会
電話 55-9890

あすの江南

愛知・おひさま自然エネルギー（株）を訪問

市民の出資で再生可能エネルギーを普及

8月18日（月）市議団など5人で、愛知・おひさま自然エネルギー（株）を訪問。注目を集める市民の出資による太陽光発電普及の取り組みについて伺ってきました。

写真は市内に設置された太陽光パネル。記事とは無関係です

自然エネルギーの地産地消で地域経済の活性化めざす

「安全な自然エネルギーが広まってほしい」と願う市民の想いを出資金として集め、小中学校など公共施設や民間事業所、工場など一定の広さのある屋根を借りて、市民の手で太陽光発電を設置するプロジェクトです。発電した電気は全て中部電力に買い取ってもらい、収益に応じて出資者に配当金を支払い、屋根貸しに対しても利益を還元します。

太陽光パネルは地元中小企業が施工業者となって設置し、保守点検も行います。おひさま自然エネルギー（株）は出資金の募集運用を受け持ちます。

先進的な長野県飯田市の取り組みに学んだもので、すでに西尾市では地元商工会議所が中心となり6億円の出資金を集め、「にしお市民ソーラー事業1号株式会社」が市所有地に2000kwの太陽光発電を設置し、運営しています。出資者への予定利回りは年2.5%で、一部は地元特産品で還元。地域経済の活性化、自然エネルギーの地産地消を実現させています。

豊明市でも出資者を募集中で、市内7小学校の屋根を借りて計256kwの太陽光発電の設置が進められています。

江南市でも行政と市民、事業者が力を合わせて、子どもたちの未来を拓く市民発電所ができないものでしょうか。

これからの図書館の在り方は？

江南市議会図書館問題特別委員会は、8月22日（金）第3回目の会議を開きます。

7月30日（水）に開催された第2回委員会では、市民4人が傍聴される中、市立図書館館長と副館長から「これからの図書館の在り方について」と題して ①文科省の図書館の設置及び運営上の望ましい基準について ②公立図書館の運営について ③江南市立図書館の取り組みと電子書籍の今後について説明を受け、質疑応答を行いました。

	江南の図書館	目標基準（8万～10万人市の場合）
延床面積（㎡）	962	4,188
蔵書数	122,625	408,536
貸出点数（市民1人当り）	4.0	12.2
図書資料費（千円）	10,405	31,235

2012年12月に改正された「図書館の望ましい基準」は、図書館司書の確保と資質能力の向上、継続・安定性が保障される適切な管理運営体制の構築、学習成果を活用して行う多様な活動の機会・場所の提供、利用者の読書・学習活動を支えるのみならず、地域の課題解決を支援し地域の活性化に貢献する役割を図書館に期待するなど、これまで以上に図書館の質の向上を求めるものとなっています。

館長・副館長からの説明で、市立図書館でも「望ましい基準」を拠り所として精一杯努力していることが分かりました。しかし、狭すぎる現施設と少なすぎる図書館予算では限界があることも明らかでしょう。

図書館問題特別委員会では来年2月までの間、現図書館の現状と課題、新図書館建設の必要性について検討し報告書を提出する予定です。市民の皆さんがどんどん声をあげることが重要となっています。

初めての「市民と議会の意見交換会」に約60人が参加

10月の「広報こうなん」で結果を報告する予定です

7月27日（日）江南市議会として初めて「市民との意見交換会」を約60人の参加で開催しました。

公共交通の在り方めぐり、活発な議論

建設産業委員会の分科会では、公共交通のあり方について様々な改善要望や意見が出され、関心の高さが伺えました。

名鉄バス等の沿線以外は公共交通空白地域の江南市。7年前に予約制タクシー（いこまいCAR）の制度ができましたが、ドアツードアで料金はタクシーの半額余と非常に便利な反面、半額でも年金の少ない高齢者にとっては高額です。気軽に買い物に利用することはできません。

また利用が増えるほど市の経費が青天井で増大する、市周辺部と中心部の公共交通の格差が拡大しているなど、いこまいCAR頼みの限界が表れてきました。どこに住んでいても低料金で気軽に外出し安心して暮らせるよう、市内の公共交通を再構築することが必要になっています。

これまで市役所内部で協議されてきましたが、市民参加と情報公開には程遠い状況です。また交通の問題だけを考えるのでなく、どんなまちづくりを目指すのか、福祉や教育や地域経済も一体に捉え、市民参加で作り上げる視点が必要ではないでしょうか。

子ども、若者、高齢者も、安心して住み続けられる江南に